

## あとがき

聞き取り調査に訪れた 2002 年 12 月 11 日は大雪が降った直後で、自動車での移動を諦めて電車とバスを乗り継いで馬頭町を目指した。家から駅まで自転車で 20 分、宇都宮駅から氏家駅まで 20 分弱、乗換えのため 20 分待ち、氏家駅からバスに揺られて一時間、交通費合計 1420 円、計 2 時間ほどで馬頭町の中心部へ到着した。交通不便な印象を受けていたが、朝は喜連川と馬頭の高校生の通学のためかバスの本数は一時間に二本で意外と便利であった。但し乗客は少なく採算が取れないため補助を受けて運行しているようだ。喜連川と馬頭の間にある小川町では小学生の団体が通学のために乗り込んできた。歩いて学校に行くことが出来ない距離に小学校があるのかと思うと、那珂川沿川地域の過疎化が深刻なのだという実感が沸いた。

その日言葉を交わした人物は犬の散歩をしていた方にはじまり気さくで素朴な方ばかりだった。帰路は馬頭町広重美術館でボランティアをしているおばあさんと話ながら宇都宮まで移動したのであつと言う間であった。雑談から得たものも多く馬頭町には田舎の温かさがあると実感した一日であった。特に、実は桑野弘さんにお会いしたかったと言う話をしたところ即座に桑野さんに連絡をとってくださった社会福祉協議会の薄井さんのご配慮で、桑野さんにお会いできたことは一番の財産であった。いわむらかずおさんの心を動かした人にお会いしたい、と言う願いが叶ったし、筆者自身もまた桑野さんのお人柄には学ぶ点が多く得られた。このテーマで早くから取り組んでいれば、ほかのボランティアの方々などにもお会いできただろうし自身が活動に参加して経験を盛り込むなど論文にふくらみをもたせられたのではないかと思うと後悔の念がよぎる。

道の駅ばとうのパンフレットにこのような一文がある。「広重の絵がいきづく栃木の馬頭 ここはまさに浮世絵のような のどかでやさしい潤いの里」。筆者は馬頭町が良いところだと思っている。最大の魅力は「田舎らしさ」である。自然が豊かで土地の人の人柄が温かいところだと感じている。町の良さを残したまま更なる発展を遂げることを祈っている。数十年後に八溝杉の家屋が建ち並び江戸風の街並みになった馬頭町を散策することを楽しみに思う。

最後に関係者各位に感謝を述べたい。この卒業論文は聞き取り調査が主で多くの方々に協力頂いたことで成り立っている。テーマを再考したことで本稿の取り組みが遅くなり残念ながら協力いただけなかった方もあったが、ご多忙の中、快くご協力して下さった方々がとても多く印象に残った。栃木県立美術館の野原さん、いわむらかずお絵本の丘美術館の岩村さん、馬頭町商工会の佐藤さん、馬頭町社会福祉協議会の薄井さん、いわむらかずお絵本の丘美術館後援会長・図書館協議会の桑野さん、馬頭町役場の松崎さんと笹沼さん、馬頭町広重美術館の折井さん、馬頭町立図書館の星さん、それから指導をして下さった中村先生とゼミ生の皆さんにお礼を申し上げます。ご協力本当に有難うございました。

## 参考文献

下野新聞社『魅せますとちぎ市町村ガイドブック 2002 年度版』(2002 年)

JTB『'02～'03 るるぶ栃木』(2002 年)

栃木県立美術館、馬頭町美術館準備室編『馬頭町所蔵・青木コレクション展図録』(1998 年)P5

馬頭町商工会 <http://batoh.shokokai-tochigi.or.jp/>

馬頭町役場 <http://www.bato-machi.jp/>